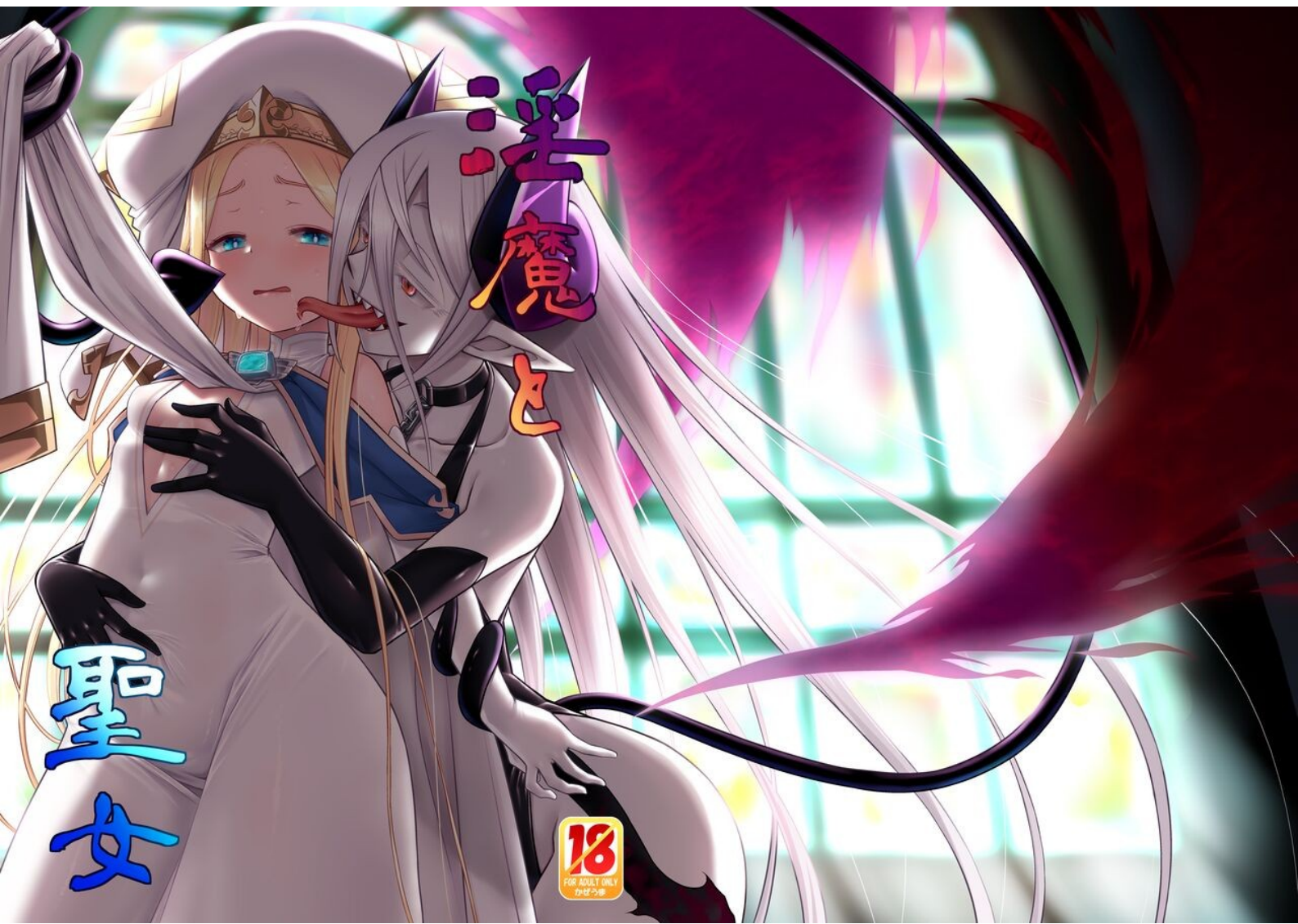




魔族…ですか？

ええ
被害はないのですが
それらしき者を見かけたという
報告が後を絶たず

差し出がましい
ですが

巡礼は山を迂回
されたほうが
よろしいかと…

…お水
ありがとうございます
ございました

魔族の脅威が
身近に迫るとあつては
村の皆様も
不安なことでしょう

私が追い払って
みせます！

しかし
危険では…っ

ご心配

どうも
ありがとうございます
ございます

でもこれも
私の務めですから
大丈夫…

聖女

ですから

光よ!!!

へえ……
思ってたよりも
やるじゃない

凄まじい法力！
百年に一人の聖女という
噂もどうやら本当かしら

……でも
まともにやり合ったら
消されかねないわね

魔の眷属とはいえ
命まで取りたく
ありません

羽根が常に
揺らいて見える……
空間に干渉できるほどの
力を持った魔族……

この地を
去りなさい

仕方ありません……

祓わせてもらいます

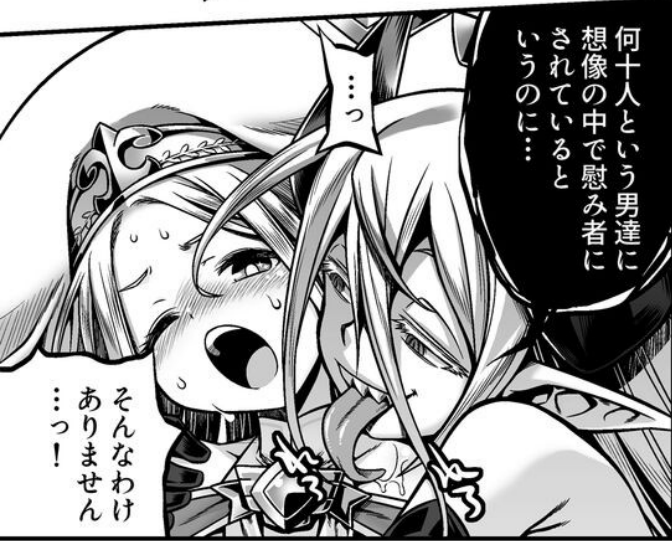
あらあら
見送して
くれるの？
優しいのね

でもこのまま
戦えば終わって
しまうのは
貴女の方かしらね

いと高き天の頂に座す
創生の女神よ

我に魔を討ち祓う力を
与えたまえ





浄化

ピュリフィケーション

あら凄
一瞬で浄化
したわね

よほど女神に
愛されてるのね
堕としがいが
あるわぁ♡

私が狙いなのに
捕らえても
すぐに殺そうと
しないで
どういう
つもりです！

まだどんな目に
遭わされるのか
察せないのお？
やっぱりおぼこね
私は淫魔なのよ？

貴女を犯す
ために捕まえた
に決まってる
じゃない

穢すために

ぐちゃぐちゃの
ドロドロに
汚し尽くすためによ

…っ
なぜ…
そんなっ

あはっ♡
そんなのお
愉しいからに
決まってるじゃない

百年に一人と言われるほど
女神の寵愛と加護を
一身に受けた聖女！

味見しないわけには
いかないでしょ？

心配ないわ
たっぷりと可愛がつて
死ぬほどよがり悶えさせて
喘がせてあげるから♡

無駄
……です

ん？

無駄です……!

戦う力は
封じられても
私は女神様の加護に
護られています

あなたの術は
私には効きません

んゝダメダメ♡

今は
世界がどうだとか
そんな高尚なお話は
していないのよ?

しかし殺すだけなら
容易でしょう
おやりなさい

ですが覚えておくことです
いずれ忌むべき闇は払われ
女神様の光で世界は
満たされるでしょう

とおうつても

かあんたん♡

確かに女神の加護に
護られている限り
私の術は届かない
でしょうね

でもこうして
触れることが
できるだけで十分

貴女みたいな
小娘を堕とす
ことなんて

これだけの
スキンシップでも
貴女の性感帯
イイところ
全部分かっちゃって
いるもの♡

…っ
そんなのっ
戯言ですっ

ふふっ

じゃあ
ためしてみる？

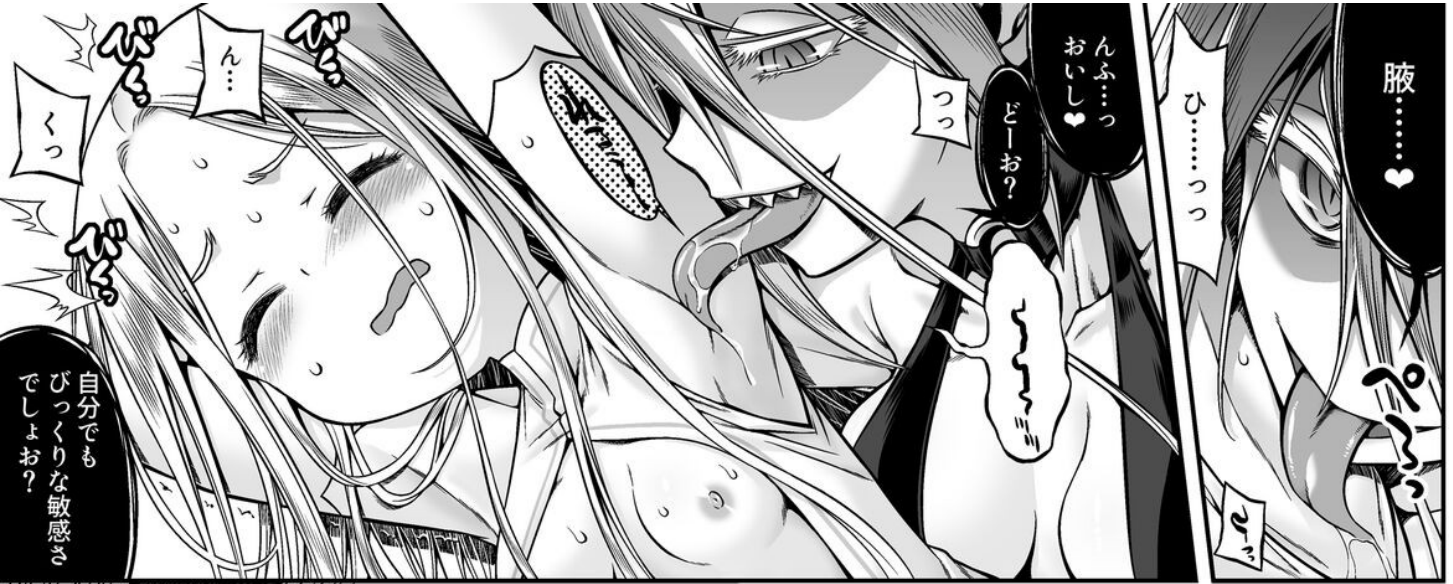
いろいろ教えて
あげる

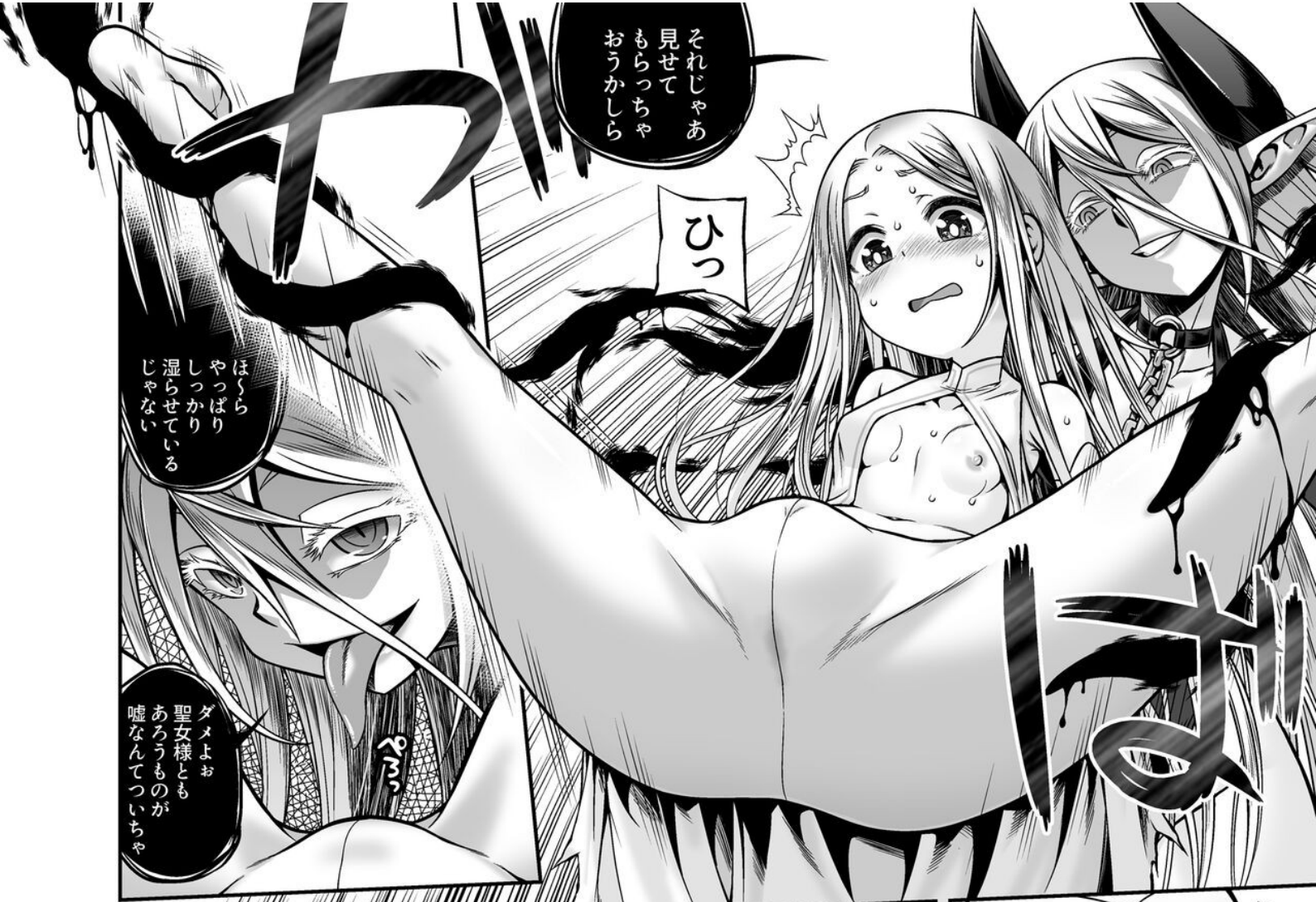
内もと

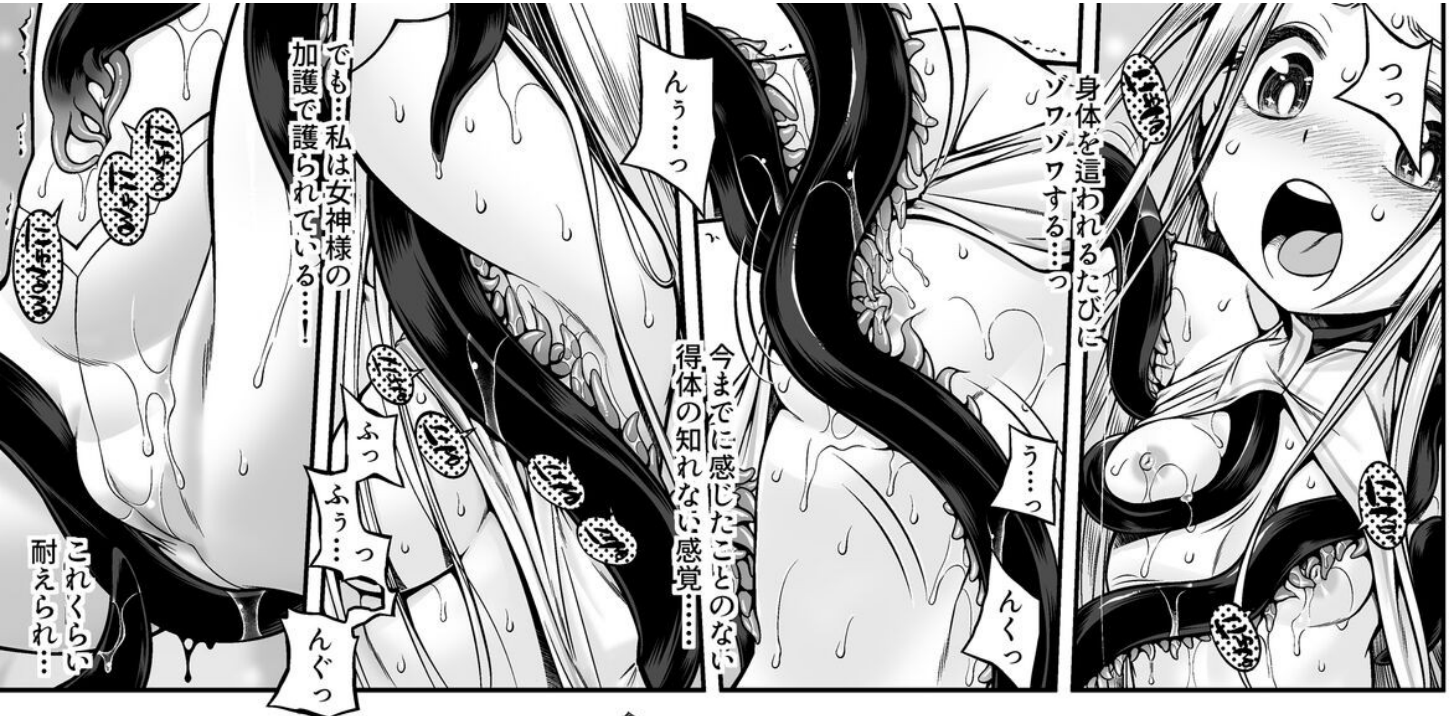
!?

貴女のイイところは

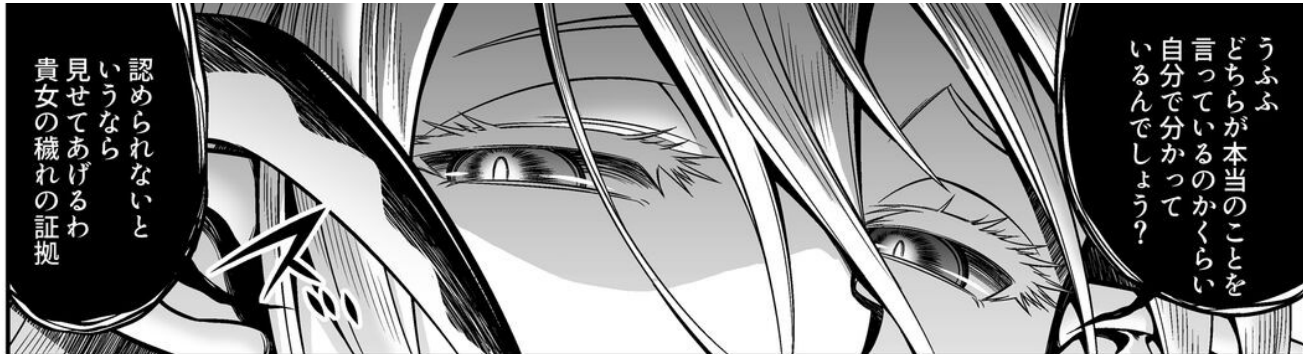
あとは……

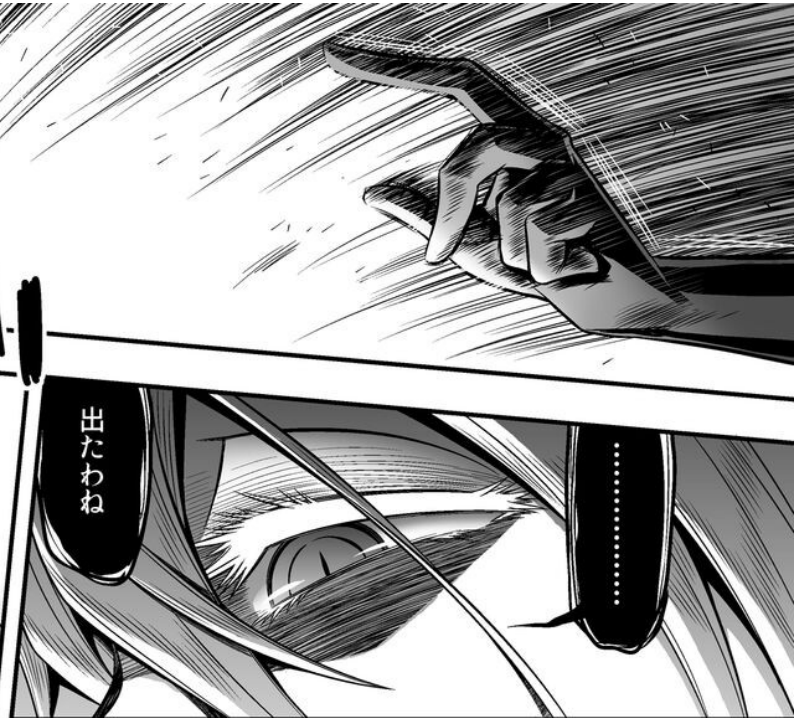




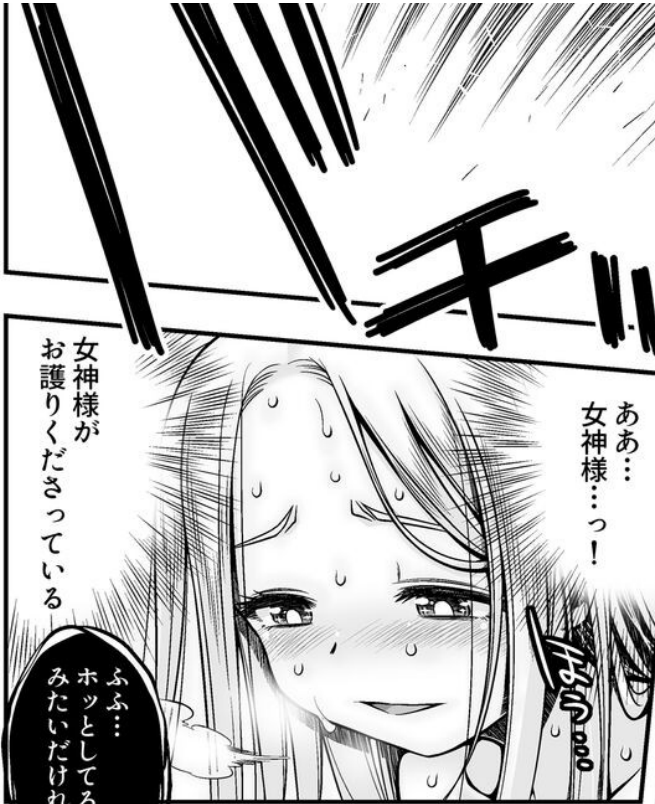








出たわね



ああ……
女神様……っ！

女神様が
お護りくださっている

ふふ……
ホッとしてる
みたいだけれど……



もっと
よく見たほうが
いいんじゃないかしら



羽根が少し
欠けているわね

穢れのせいよ



貴女が穢れを
識れば識るほど
その羽根は
欠けていく……

あとどれくらいで
全部筆れるか楽しみね



女神の加護



いい
でしょう？
ここ…

ふっ

女の子の
一番敏感な
ところよ

あら
中で硬くなって
きているわね

うぐっ

うぐっ

強がりはお
ためよお
虐めたく
なっちゃう

そんなにいいの？

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

ふうっ

よ……っ
よく……なんて……
ありません……っ！

優しく
ほじくり出して
あげる

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

んう……っ

ひっ

や……うあっ

はあ……っ

美味しいわよ
貴女のエッチな
お汁…♡

それ以上…
揺さぶりを
かけても
無駄…です

あなたの狙いが
分かった以上…
私は…今度こそ
耐えて…みせます

あらあ
まだそんなこと
できるつもりで
いたのお？

それじゃ
ちよつとだけ
本気出して

ちよつと責めが
ヌルすぎたかしら？
ごめんなさいね

あ・げ・る

これでね♡

いただきます

あはっ

あははっ潮を
吹いちやったわね
そろそろ限界
かしら

ほらほら
食べられちゃう
わよ

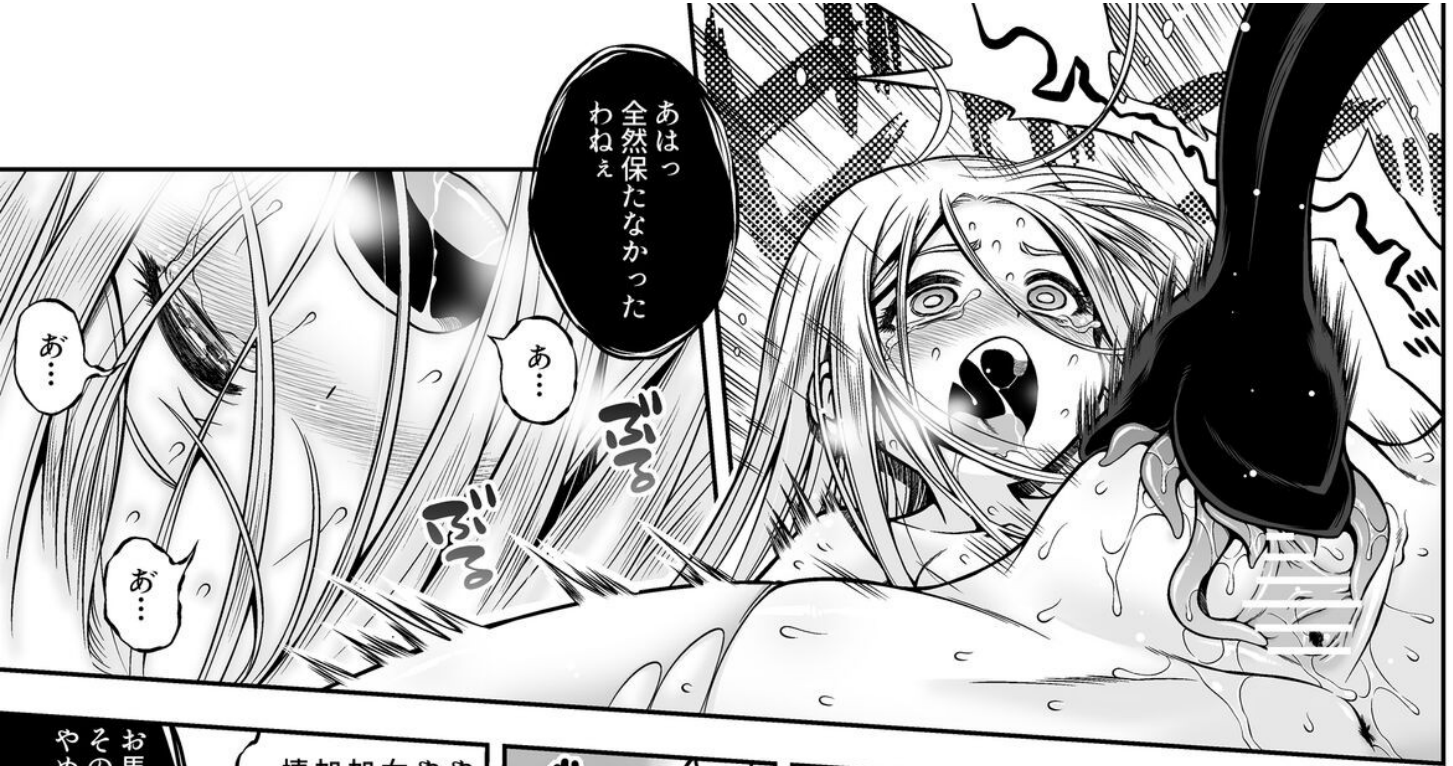
膣ヒクつかせ
ちやつて

快楽に
負けない決心
したんじゃ
ないの？

腰よじつても
逃げられないわよお
完璧に吸い付いて
いるからね

ほらがんばれ♡
がんばれ♡

あらあらあ？
もう
耐えられない？
イッちゃう？



あはっ
全然保たなかった
わねえ

あ...

あ...



やめ...っ
女神様...のっ
加護...がっ
壊れちゃう...っ

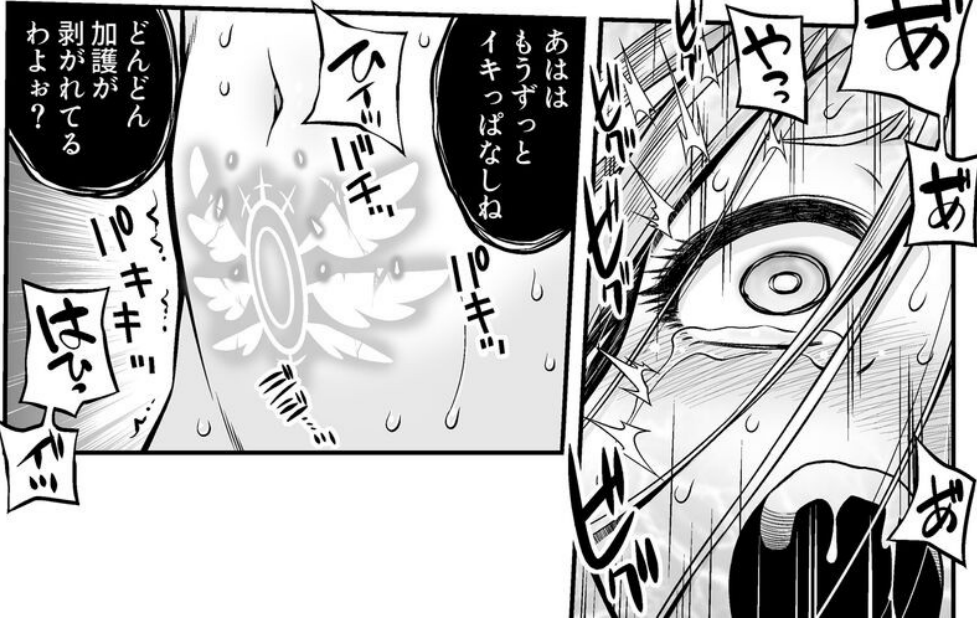
お馬鹿ねえ
そのためにしてるのよ?
やめるわけないじゃない

壊れるのが嫌なら
イクの我慢なさい



さあ
休む暇は
ないわよ

次はおっぱいも
一緒に責め
ちゃおうっかな



あはは
もうずっと
イクっぱなしね

どんどん
加護が
剥がれてる
わよお?

10キキッ
10キキッ
はっ
はっ

でも
リクエスト
もらっちゃったし
早く終わるように
ペース上げてあげる



あははっ
もう全然
堪えてない
じゃない

こんな敏感な
身体を抱えて
禁欲生活してたなんて
大変だったでしょう

今までの分
取り戻さなな
くっちゃね

このまま
百回くらい
イッちゃい
ましょつか



目障りな
女神の加護も
すっかり
ボロボロだし



処女膜ごと
簡単に
破れちゃいそう...♡



このやわ肉に
潜り込むのが
愉しみだ
わあ……♡

さあ…記念すべき
聖女様の破瓜の瞬間ね

ご自慢の加護で
抵抗してくれても
いいのよ

やめ……

やめ……て……

ひ……

や……





とっても
気に入っちゃった♡

貴女^{あなた}の膣^{ちゅう}キツキツなのに
中は熱くねっとり
絡みついてきて
すこいいわよお

うう……
女神さま……



泣いている場合には
ないわよ？



私の体液が
どんだん膣に
入っちゃってるわ♡

あ……
じよ……

浄……化……を……

ほらほら



あはっ
女神の加護が砕けちゃった♡
ほら見てずっぱり
入っちゃったわね

う……

う……

そんな……

そんな……

めが……み……
さま……っ

私……穢され……っ



うふふっ
そうそう

麓の村で
口にしたものとは
わけが違う
希釈されてない
淫魔の体液を
粘膜で直だから

しゅっ...

めっ...

そうして必死に
浄化し続けないと

あつという間に
媚毒が回っちゃうわ
よ.....っ

まあ

何度浄化しても
いくらでも
分泌して
あげるし

おちんちんが
擦れる感触は
浄化したところで
無くなりはない
けど.....ね

うっ

うう...

うぐ...

ふっ

はあっ

くすっ

こっち
お尻にも
あ・げ・る・っ

うづうづ

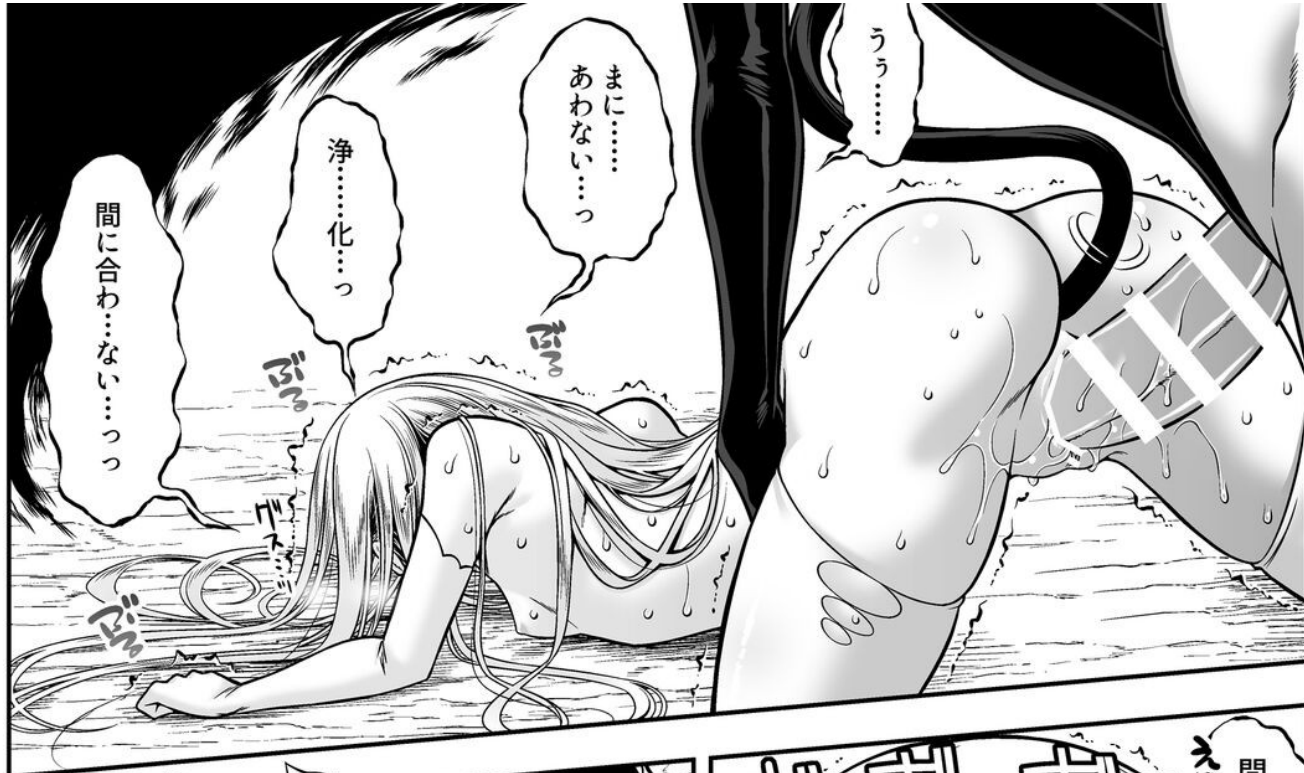
ガキ

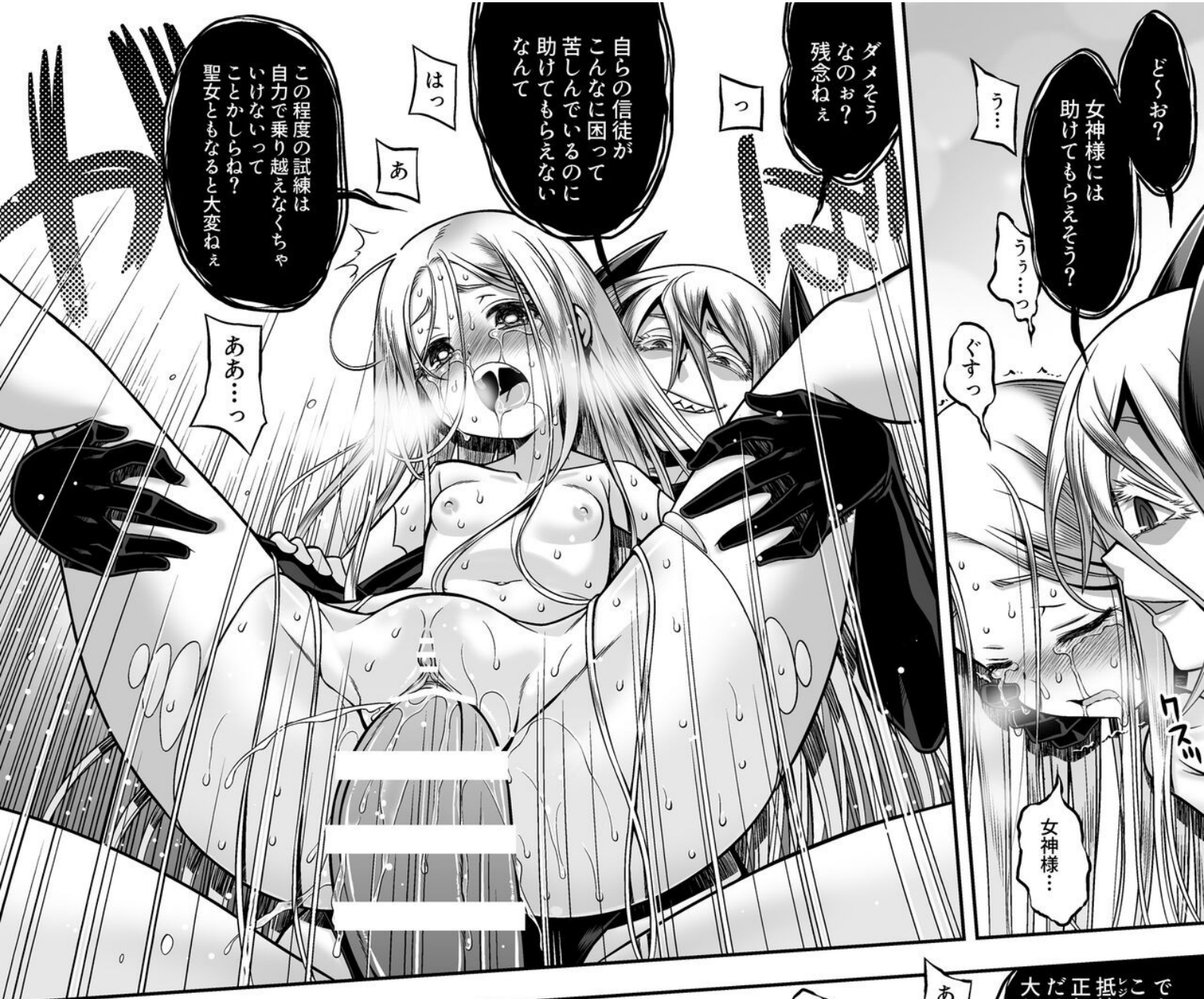
はあ

はぐ...

ガキ

ガキ





どうお?

女神様には
助けてもらえそう?

う...

うう...っ

ぐすっ

女神様...

ダメそう
なのお?
残念ねえ

っ

自らの信徒が
こんなに困って
苦しんでいるのに
助けてもらえない
なんて

はっ

あ

この程度の試練は
自力で乗り越えなくちゃ
いけないって
ことかしらね?

ああ...っ

でも正直
ここまでしても
抵抗しながら
正気を保っている
だけでも
大したことよ

あっ

や...

やああっ

常人ならとくに
壊れてるし

聖職に就いている
者だとしても
耐えられないわ

さすがは
稀代の聖女様♡

そろそろ
頃合いかしら...

ズ

私はね...貴女の
その肉体に注がれた
淫猥な記憶を
呼び起こすことが
できるの

あ...

ズ

貴女が
想像の中で
慰み者に
されてるって
話覚えてる?

貴女は否定して
いたけれど...

あ...?

その肢体に注がれた
欲望にまみれた視線がどんな
だったか…
貴女にも観せてあげる…♡

ははははは

抵抗しないで…

このままでは…術…

飲まれ…

さあ
御覧なさい

欲望に満ちた
男たちの情動を…

ふふ…
だいふ慣れてきた
ようだね

え…
この…声…

嘘…

はしたない
娘だ

神官長…
様…？

さあ
準備は
いいようだ

いぎぎぎ

は…はい…

おねがいます…



あらあら
善がっちゃんって
さっきまでの
貴女そのものが

さあ私の愛を
受け止めなさい

どうでしたか？
気持ちよかったですか？

は…
はい…

あーん♡♡♡

あ♡

あ♡あ♡あ♡

嘘…嘘…

こんなの…
嘘です…っ

いいですよ聖女様…
教えた通り
そのまま舌を絡めて…

まあ…生徒を
手荒に扱う教育係ね
彼は貴女にこんな
乱暴を働きたかった
ようねえ

これも教育熱心とでも
いうのかしらね？

んう…っ

ぶぶっ

んお…お

ヒビッ

さあもつと奥まで
啜え込むんです

んんんん

んんんん

うそ…

おやおや
すいぶんと
乱暴なこと
相手は聖女様だと
いうのに

とても信者のふるまいとは思えないわね

こ…こんな…ものを
いくら観せられても
惑わされません…

すべて…全て
私を陥れるための
作り物です…っ

礼拝も
貴女のことを
視姦するために
通っていたんでは
なくて？

ふふっ

それじゃあ…

やああっ

やめ

これは
誰の視線の記憶
だろ思う？

どうか
やめて
くださいっ

あっ



人が親切に
魔族がいると
教えてやっているのに
わからん小娘だな

年長者の言うことを
素直に聞けるように
身体で躡けてやる！

あはははっ
業の深い入のようね
儼の村の長は
少し前に会った
ばかりでしょう？
よく思い出して
御覧なさいな

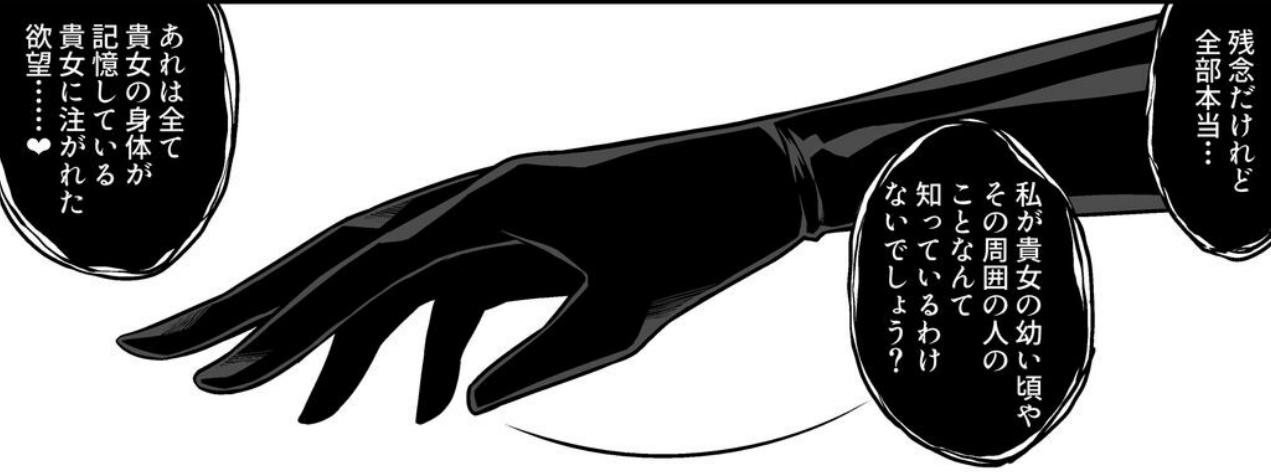
どんな目をして
貴女のことを
舐っていたか

フフ…ッ
精神もそろそろ
限界かしら…

はあはあ
俺の子を産め！
女神の子を！

あひん
おやめ
くっくくく

うそ…だ…
うそ…よお…っ



残念だけれど
全部本当…

私が貴女の幼い頃や
その周囲の人の
ことなんて
知っているわけ
ないでしょう？

あれは全て
貴女の身体が
記憶している
貴女に注がれた
欲望……♡

彼らの妄想で貴女が
どんな快感を得ていたのか…
体験させてあげる

今観せた
全員分の快感を
一気に…ね♡

あ……

さあ…

善がりなさい

う……



あ……?

あ

あ



あ
あ
あ

あ
あ

あはっ
パネ仕掛けの
おもちゃ
みたくい

あ

あん無駄無駄

あ

あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ

あ

どんなに
身を振ったって
快感からは
逃れられないわ
おとなしく全身で
受け止めなさい

あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ



もう……う

もうやめ……
やめでください……

もう……許して
ください

あらあら
とうとうギブアップ？
負けを認めちゃうの？

……み……
認め……ますっ
だ……だから……

聖女様ともあろう者が
魔族の私に
泣きついちゃうのね？

ど……どうかつ

お……お願いしますっ
お願いしますうっ

ひく

えび

あらら
本気で泣いちゃって
さすがにちよっと
可哀想ね

お願いしま……



でもダメ♡

おは

ゴ

コ

キ

駄目でしょお？
魔族なんかに
お願いしてちゃあ

助けを乞うなら
愛しの女神様になさい

めが…み…
さま…っ

女神…さま…
お救い…
くださひっ

お救い…
くださひっ

私…では…
この魔族に勝てません…
どうか…っ

どうか…

どうか…
おだすげ…
くださ

あ

お

お

め…

どお？
そろそろ救って
貰えそっ？

めが…み…
さま…っ

めがみ…
さま…あ…っ





どうして……



あ

あ

あ

あ

あめあめ
うっぱやう
うっぱやう

う

う

う



あら…?

女神の加護
子宮には
拒まれ
ちゃった♡

残念

あらら
意識
トんじやった
かしら?

おは

びしょ
びしょ
びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

駄目でしょう?

魔族相手に
そんな油断した姿
みせてたら

大変なことになっちゃうわよ

びしょ



たあいへん
直腸がどろっどろの
淫魔汁まみれに
なっちゃうわよお

ほら浄化しなくちゃ

あらあら
またお漏らし？





脱水起こし
ちやわらないように
たっぷり飲ませて
あげなくっちゃね♪

さあて
それじゃあ
人がするような
普通のセックスは
もう終わりにして

ここからは

どろどろ

どろどろ

どろどろ

どろどろ

どろどろ

わたし
淫魔としか味わえない
快楽の世界へ
連れて行ってあげるわね

どろどろ

どろどろ

どろどろ

どろどろ

学習しない子ねえ

言ったでしょう？

油断した姿を
見せちゃあ

駄目だって…

ね♡

うええええええつ

うえ…っ

うええええええつ
ええええつ



お…お股…
じゅぶじゅぶされる…
の…と…突起…を…
こすられる…の…っ

お…お尻…
お尻…はじられる…
の…

耳…しゃぶられる…
の…も…
うな…じ…舐め…られる…
のもっ

おへそ…ぐりぐり
される…のも…っ

胸…ちゅ
ちゅ…び…弄られる
のも…脇…
撫でられる…のも
二の腕…も…

ゆ…指…の間這われるのも…
ふともも…撫でられるの…もっ
ぜ…全部…っ
全部気持ちいい…ですっ
う…うう…っ

いっぱい
感じてくれた
みたいで
嬉しいわあ

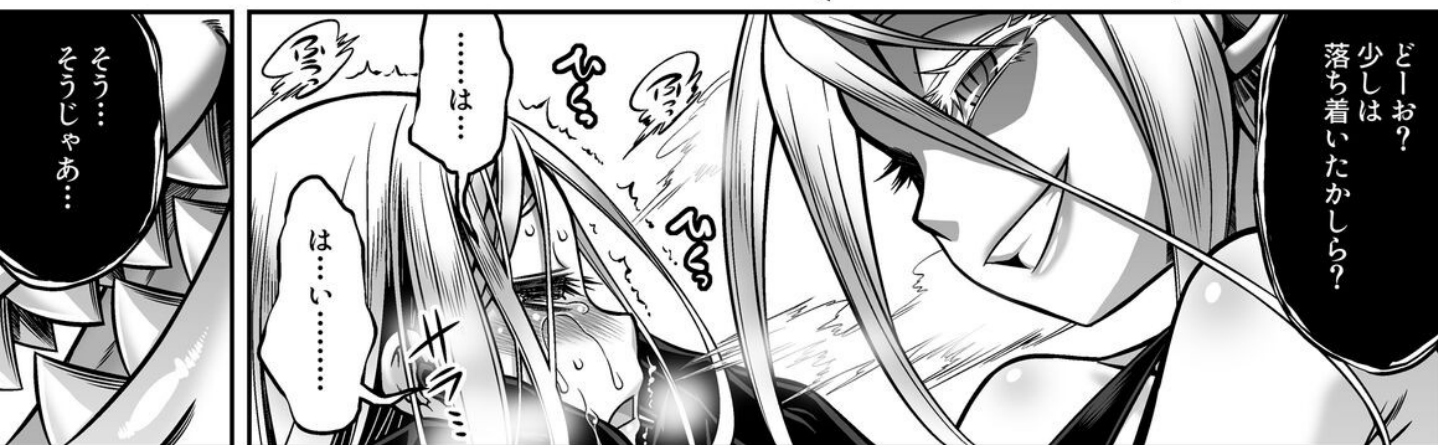
いいわ
可愛い聖女様
のお願い
聞いてあげる

あは♡

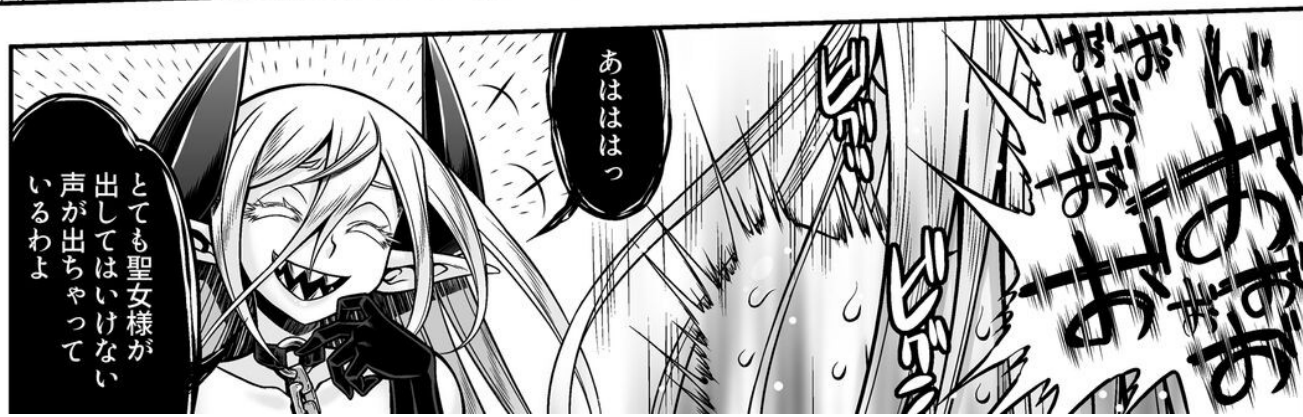
素直に
なったわね

は…
は…
は…

せえっ









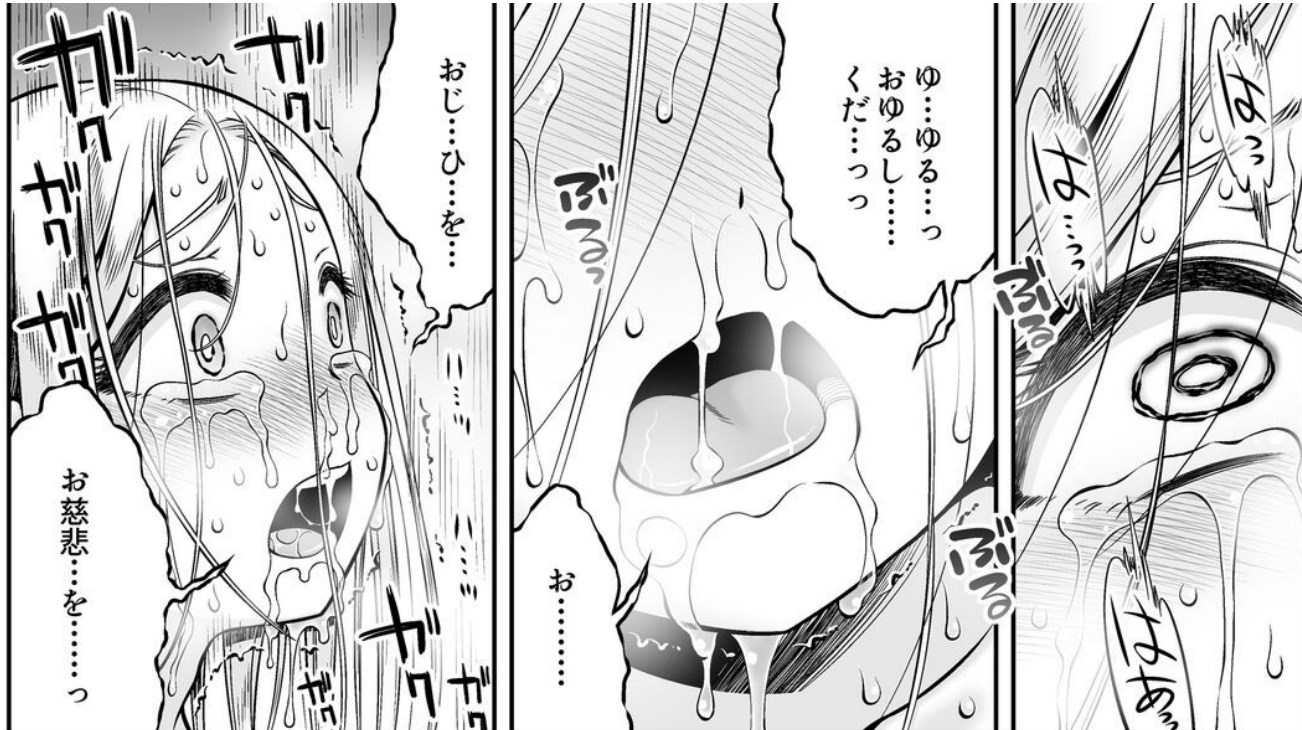


癖に
なっちゃうわよね？

あははっ
また潮吹いちゃってる









悦んで
くれているようで
嬉しいわあ

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

あらあらあ？

反応が
なくなっちゃった
壊れちゃった
かしら？

おはよう
おはよう
おはよう

おはよう
おはよう
おはよう

又平太

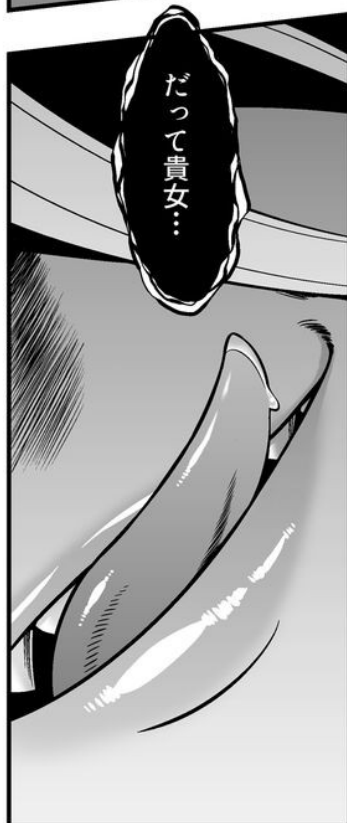
可愛らしい
イキ顔見せて…♡

あっは♡

だらしない表情
かお♡

アハハハ





だって貴女…



純潔の聖女様がこんな姿になっちゃって…

いっそ簡単に堕ちてしまったり気が狂えれば楽だったのにね

本当に可哀想…

わたし
淫魔に

気に入られ
ちゃったもの…♡

愉しみね……

目を覚ましたら
今度はどうやって
虐めてあげようかしら……♡





あとがき

エッチな本でははじめてのオリジナルでこんにちは。エッチな本ではと前置きをする以上健全なものでは実は描いたことがあるのです。かつては少年創作をやっていたんですよ。本当です。信じてください。

ごちゃごちゃ描いていたら入り切らず削った展開もあるのに過去に描いたものでも最長のページ数になってしまいました。描き始めと描き終わりで一年以上の開きがある上に後になって描き直したコマなどもちらほらあり、絵柄が微妙に違うとか安定しないとかあったらすみません。アホみたいに時間がかかっている割にはクオリティは普段とあまり変わらない悲しさ。時間さえかければ誰にでも傑作が描けるというのはやはりデマでした。ちくしょう。

まだまだマスクが手放せない情勢が続きますが皆様が健康にシコシコライフを過ごせますように。この作品がその一助となれば幸いです。

- 誌名 : 淫魔と聖女
- 発行 : かぜうま
- 発行者 : 南☆
- 発行日 : 2022年11月13日
- 連絡 : isogai@big.or.jp
- 印刷 : サングループ

※未成年者の所持閲覧を固く禁じます
※無断転載・複製、
ネット上へのアップロードを禁じます